

孫の手通信



第29号

平成25年11月11日

玉川孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 0475 (47) 3014

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

9月議会開かれる

9月18日に開かれた第3回一宮町議会定例会は、補正予算ほかすべての議案を可決し、閉会しました。議決された主な議案をお知らせします。

25年度一般会計(第3次)補正予算

○新庁舎建設事業費 1億4663万8千円

内訳は新庁舎ネットワークの設備工事費、新庁舎の備品購入費、設計変更による建設工事費、議会放送システムの設備工事費、防災情報システムの設備工事費などです。

なお、天候にも恵まれ作業に遅れはなく、来年5月のオープンに向け順調に工事が進められています。

○観光振興事業 91万1千円

一宮町の知名度を高め、観光客を誘致するために、JR東京駅構内に電飾看板を設置します。

教育委員の任命

一宮町教育委員会委員に中村敏夫さん(3区)と山田和雄さん(2区)を再任することに議会の同意をいただきました。任期は4年間です。

人権擁護委員の推薦同意

人権擁護委員に吉田茂さん(原区)を推薦することに議会の同意をいただきました。任期は3年間です。

一般質問から

8名の議員の方から質問をいただきましたが、今年の夏に一宮海岸に開設した有料駐車場と保育所の移転整備についてお知らせします。

○一宮海岸有料駐車場の開設

町は、海岸を整備する目的で一宮海岸に7月13日の海開きから8月31日までの50日間、試行実験として有料駐車場を開設しました。

総駐車台数2万795台のうち、有料の対象は8割にあたる1万6952台で、料金収入は847万1千円となりました。初年度ということもあり、防護柵設置の工事等で駐車場開設に654万円の経費を要しましたが、当初の目標に近い193万1千円の収益を上げることができました。また昨年度まで海水浴場周辺の道路には路上駐車が目立っていましたが、今年は全く無く、道路がきれいになり、車上狙いもありませんでした。以上から試行実験は成功と考えています。

今後は関係者と協議を重ね、さらなる改善を進めて来年も試行実験を続けたいと考えています。収益金は基金に積み立て、海岸の整備を行ってまいります。

○保育所の移転整備

一宮町には一宮、原、東浪見の3つの公立保育所があり、いずれも建設から年月が経過して老朽化が問題になっています。中でも一宮保育所については、一昨年の東日本大震災で津波が一宮川を遡上したことからその危険性がクローズアップされ、早期移設を望む声が多く寄せられました。

そこで町は、地域のニーズを正確に把握するため、昨年度に今後の公立保育所のあり方について就学前の児童を持つ家庭を対象としたアンケート調査を実施しました。さらに今年度は、子ども・子育て支援事業を総合的かつ計画的に推進するために「子ども・子育て会議」を設置してご議論いただきたい

ています。

今後は「子ども・子育て会議」の報告書を元に町で保育所整備の基本計画を作成し、議会と町民の皆様のご理解をいただいた上で子供たちのために早急に整備を進めてまいります。

一宮川の津波対策事業

一昨年の東日本大震災では、津波が一宮川を遡上し町内で床上浸水30戸の被害が発生しました。一宮川を管理する千葉県は津波対策として一宮川の河口から中之橋の間の堤防をかさ上げする事業を計画しています。そこで9月14日と22日の二日間、対象地区の15区、16区、海岸区、船頭給区の住民の皆様を対象に事業説明会が開催されました。

具体的には、100年に1度の津波が来ても浸水しないよう、現在ある一宮川の堤防を最大2.9メートル、平均で1.7メートルかさ上げする計画です。県の基本的な考えでは、今年度中に詳細設計に取り組み、早ければ来年度にも工事着工、28年度から29年度に工事完成という予定です。

津波対策が一番大事なのはもちろんですが、風光明媚な一宮川は年間を通じて地元の人だけでなく多くの観光客が散策や釣り、川遊びで楽しんでいる場所でもあります。町としては景観や利用にも十分に配慮して事業を進めるよう県に要望してまいります。

一宮の魅力ある海づくり会議

10月12日に第8回一宮の魅力ある海づくり会議が開催され、砂浜の浸食を防止する目的で今年の冬に1号と2号突堤の間に予備試験的に粗粒材(2.5から5ミリ)を投入して養浜を行う県の事業計画が了承されました。事前事後のモニタリングで効果と影響を確認し、その結果を元に次回の会議で本試験施工を検討してまいります。

一宮の魅力ある海づくり会議は、県と町が主催し、地元の一宮のサーフィン業、漁業、観光業の各関係者、区長、環境団体、学識経験者、公募委員によって構成され、年2回から3回開催されて一宮海岸の浸食対策について議論を重ねています。

勇壮に上総はだか祭り



浜辺の会場へと向かった。午後3時ころにはすべての神輿が釣ヶ崎に集まり、数百人の見物客が見つめる中で男衆が海に入り神輿を掲げながらも「総差し上げ」を繰り広げた。祭りは県の無形文化財に指定されている。

年は砂浜の神の道(かんのみち)が通れなかったが、対策が実り今年は10年ぶりに本来のルートに戻る事ができた。浜では神の馬や約100人に上る男衆が豪快な掛け声を上げながら、荒波が打ち寄せる

一宮・玉前神社

結。上半身裸の若者たちが神輿をもむ勇壮な姿が大勢の見物客の目を奪い、圧倒した。午後1時すぎに神(かん)の馬、神主(かようぬし)、命婦(みょうぶ)が玉前神社を出発。波による浸食で海岸線が削られるなど近

釣ヶ崎の祭場砂浜で海しりながら神輿をもむ若衆たち。上総一宮町

平成25年6月14日 千葉日報

一宮町は、町一宮の能。使用料は年間6千円まで町特産のトマトが豊盛住宅北側に今年度初だが、今年度は6月1日週遊園で書かされるなどめて市民農園を開設。からの貸し付けをなした農業に影響が出ないよう利用者を集めている。耕ため5千円。申し込めば耕作はできない。また、作放棄地を町が借り上げ、1区画50平方メートル(5坪×10坪)を37区画用意した。

「市民農園」を開設

1区画50平方メートル利用者募集

貸し付けは1世帯1区画年間を通じて受け付けて1年更新というところから画で、利用者は町内外を問わない。期間は来年3月31日まで。更新が可能。貸しは終了後でも、設けられている。

町広報やパンフレットのポスターなどPRしているが、現在までの申し込みは6区画と少ないことから、町産業観光課は多くの人たちに活用してほしいと呼び掛けている。

初のハマグリ拾い子どもたちに人気

一宮海水浴場で海開き



ハマグリ拾いを楽しむ子どもたち＝一宮海水浴場

いとあひざり。式典の後は、子どもたちが対象にしたハマグリ拾いやつまみどりの他、パーベキューなど初めての企画で会場は盛り上がった。無料の「ハマグリ拾い」は大盛況で、海岸にまかれた約千個のハマグリが二気に無くなった。また500円で参加できる「ハマグリつまみどり」は、割りほしてハマグリをつかみ取るルールで、中には1分間で10個ゲットするもいた。

平成25年7月14日 千葉日報

また、格段で販売されたハマグリやマンゴフレットなどを、すぐ食べられるようパーベキューセットも用意され、家族連れが思い思いに焼いて食べるを楽しむでいた。

津波避難訓練のお知らせ

日時 平成25年11月17日(日) 午前8時45分頃 ※雨天中止

場所 最寄りの津波避難所、または津波一時避難場所
問合せ 一宮町役場 総務課

訓練を通して、避難場所だけでなく経路と所要時間も実際にご確認ください。よろしくお願いたします。

平成25年9月26日 読売新聞

ひ孫と優雅な踊り

■一宮 日本舞踊の花園流寿福会による発表会「夏のおざらい会」が、長生村文化会館で開催された。3歳から80歳代の会員60人が、優雅な踊りを披露した。



発表会は年々回開かれ、古典舞踊や児童舞踊、新舞踊、創作舞踊を披露している。寿福会は町内などのイベントや老人ホームの慰問など、幅広く活動している。

(山崎さくら)

最近の新聞より

平成25年9月6日 毎日新聞



一宮「よいしょ」園児ら地引き綱

「よいしょ、よいしょ」——。一宮町の保育園児たちが5日、一宮海岸で地引き綱を体験し写真。子供たちの夏の思い出と「町地曳綱保存会」(山口久直会長)が協力。町内三つの保育所から5歳児ら約100人が参加し、保存会のメンバーの声援を受けながら元気に綱を引き寄せていた。雨交じりのあいにくの天候だったが、園児たちは「綱引きみたいで楽しかった」と笑顔を見せていた。【吉村建二】